全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

青空を　ひとり占めたり　赤とんぼ

私塾ネット 副理事長 梶原 賢治

全日本私塾教育ネットワーク
センター事務局　仲野　十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿53-10　ナカジュク内
TEL 03-3963-5572　　FAX 03-3963-2529
Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理 事 長　谷村　志厚
TEL047-368-2729
広報部長　監物　一男
TEL048-688-6903

塾の日フェスティバル2006　in 徳島

主催：(社) 全国学習塾協会　　平成18年10月8日

大会実行委員長　楠山　敬志

第１部　塾の日記念式典

開会の挨拶をされる全国学習塾協会の石井正純会長

１３：００～１４：３０

司会　実行副委員長　近藤誠介

●開会の辞　副会長　伊藤政倫
●会長式辞　会長　石井正純
●ご来賓祝辞
　民主党衆議院議員　仙谷由人氏
　経済産業省四国経済産業局産業部長　鎌田光治氏
　全国学習塾協同組合理事長　森　貞孝氏
　社団法人かながわ民間教育協会顧問　松田邦道氏
●永年勤続職員及び塾生表彰
●自主基準遵守塾表彰
●全国読書作文コンクール表彰
●祝電披露　専務理事　稲葉秀雄
●閉会の辞 副会長　碇優

第２部　基調講演＆パネルディスカッション

１４：３０～１７：３０

司会　実行副委員長　湯口兼司

●基調講演
　講師：セコムＩＳ研究所　甘利康文氏
　　（シニアリスクコンサルタント　防犯設備士）
　テーマ：「民間教育機関・私立学校におけるリスクマネジメント　ー犯罪から子どもを守る話を中心にー」
●パネルディスカッション
　パネリスト：仙谷由人氏（衆議院議員・衆院決算行政監視委員長）
　　岩永　定氏（鳴門教育大学教授）
　　十亀幸雄氏（愛媛県そがめ塾塾長）
　　菅原明之氏（社団法人全国学習塾協会理事）
　コーディネーター：楠山敬志（社団法人全国学習塾協会副会長）
　テーマ：　「公教育と塾との連携の現状と将来」

第３部　親睦交流会

１８：００～２０：００

司会　実行副委員長　川原光明

●会長挨拶 会長 石井正純
●来賓祝辞―篠原雅成氏、近藤茂生氏、石野ゆかり氏、梶岡努氏、後田多純寿氏、佐藤勇治氏、谷村志厚氏
●乾杯 山口恭弘
●歓談
●余興「阿波踊り」　出演 扇連
●次期開催地紹介　仙台 村川隆
●謝辞 実行委員長 楠山敬志
●閉会の辞 影山昌秀

第2部パネルディスカッション・左端は進行の楠山委員長、右端に私塾ネット会員の十亀先生(愛媛)のお顔もみえる。

塾の日フェスティバル2006 in 徳島 開催にあたって

私たち塾をとりまく環境は、来年以降めまぐるしく動く予兆が次々と出始めています。2月に中教審は30年ぶりに小中学校の授業時間増を求め、「ゆと

とり教育」見直しの具体策をまとめました。4月には、塾に通えぬ小中学生に「公立塾」をというニュースが文部科学省から出ました。さらに、7月には中教審答申が発表されました。「教職課程の質的向上、教職大学院の創設、免許更新制の導入」がその骨子です。8月には、全公立小学校で退職後の教員を活用し、「放課後教室」を行うことに1000億円の予算をあてると報道されました。

どれもこれも、私たち塾業界に身を置く人間であれば注目するニュースばかりです。長い期間に及んだ「ゆとり教育」の揺り戻しが始まると同時に、その「揺り戻し」が決して元に戻ることではありえないという現実が顕在化しようとしています。

また一方で、多発する事件により、学校や塾における「安全」が所与の条件として考えられない事態が日常化してしまいました。いずれにしろ、新しい未経験の時代に突入する「苦悩」は乗り越えるべく、対処しなければならないのが論理的必然であります。もう「日本むかし話」のようなのどかな世界に戻ることは、中世主義にあこがれるだけの夢物語と考えたほうが現実的です。

「学習塾に通う子どもの安全対策」「個人情報保護」「特定商取引」「教育再生」‥‥これらのキーワードこそ私たちが生息する場所を表現していることは、間違いのない事実のようです。本日この地にお集まりいただいた諸先生方に、英知を結集して果敢にこれらの諸問題に取り組む、ひとつの方向性をお導きいただければ幸甚でございます。

語り、飲み、踊りあかした「2006　in 徳島」はみなさまの有意義な思い出にしたいと願ってやみません。ご多忙中にもかかわらず本日お集まりいただいた方々に、厚く御礼申し上げます。

以上当日配布されたプログラムを加筆修正いたしました。

宴の前夜

長いようで短い1年の道のりが終わって、万全の準備ができたとは言いがたく、いよいよ10/8（日）前日を迎えてしまった。自らの努力不足を心の中で恥じるも、後の祭りとはこのことである。10/7（土）、ホテルの現場確認と送迎、宿泊等の確認に実行委員数名で会場を訪問。ここが会場、2次会会場、受付の設営場所、参加者の宿泊用特設カウンター等ホテルのマネージャーから案内を受ける。このホテルは昨年塾のＯＢの披露宴でスピーチに訪れて以来である。泣いても笑っても「明日」に間違いなく、今更逃げ出すわけにもまいらぬ不幸の重みを感じる。

前日から宿泊された10名で、夕食にホテルのレストランへ。この日は、翌日のお日柄がいいのか、婚礼の予約が多く、宿泊も満室の模様。おいしいものを食べようにも、和洋中とどの店も、あいにくの満員御礼、待ち時間・・・だと。食い物の恨みは素朴で怖いものであるらしく、普段おやさしい先生がフロントでとうとうキレタのだ（どうやら、主演男優賞ものの演技らしく小生には見えたが）。こういう場合、この持ち場は小生の出番と自らわきまえ、マネージャーに「晩飯が食えないとは、君、俺の顔もケツも丸つぶれじゃないか」と助演男優賞が続いた。どうやら、この上品なコンビのボケと突っ込みは、かなりの効果があったようで、すぐさまホテルの責任者は外の店に電話であたりをつけ、ホテルのマイクロバスで10名様ご一行ご案内とあいなった。

無事食事と地酒にありついたご一行様は、ほろ酔いかげんでホテルに凱旋帰還し、あすに備えるべく部屋に戻った。小生は2部のパネルのコーディネーターもあり、再度レジュメに目を通したかったが、そのまま翌朝を迎える羽目となった。もうこうなると、このままぶっつけ本番の可能性が濃厚となる。明日吹く風にまかせよう。

はちゃめちゃ奮闘記

目覚ましで起床、8:30ＡＭ。風呂に入り、シャワーを浴び、目を覚ます。10時から理事会と実行委員会最終会議の掛け持ち。理事会に出席、マナーモードの携帯がポケットの中で呼んでいる。関西方面から車で来られる先生から、阪神高速で事故のため渋滞しているとの連絡が入る。さらに、宿泊予定の先生から、宿泊取り消しの電話。パネルをお願いしている、仙谷先生の秘書氏からただいま徳島空港に到着と携帯に連絡が入る。司会をお願いしている先生から到着したが、どこに行ったらいいかとの問い合わせあり。カバンをもったまま、理事会を脱走。先生を案内して実行委員会へ。会場の設営が始まっていて、事務局とこちらからお手伝いする先生の分担が始まる。さきほどキャンセルがあった部屋に、相部屋から回っていただく先生と交渉し、部屋割りを変更、フロントに連絡。もうパニックになる暇もない。

再度、理事会に戻り、議事の進行を見守る。外は真っ青な秋空が広がり、紀伊水道北域の景色が広がっている。海の対岸は小生の故郷の和歌山市である。この窓の外の背景をキャンパスに収めればきっといい絵になるはずだが、なぜか小生たちは「会議」などという野暮な行為をあくせくと行っている。この世の不思議に首をかしげながらも会議が終了し、昼食に出た弁当をむさぼり食う。おそらく今日の最後の晩餐ならぬ「最後の昼餐」となると予感

したが、はたして予感どおりとなった。

受付横で、私塾ネット四国の先生と立ち話をし、彼は私塾ネットの会議に入っていった。さあ、戦闘開始である。徳島の先生とホテル内のレストランへ仙谷議員にご挨拶に出向く。受付に取って返すと、続々と全国から先生方が入場。いつもの風景であるが、なつかしい顔、かお、かおにうれしさと忙しさが同居し、挨拶に握手の連続。

いざ、本番

「定刻に至り・・・」、とうとう始まってしまった。こうなったら走るだけだ。一部の司会の近藤先生が話されている。なかなか感慨深いお話をされていた。この間も雑用が連続して耳に入り、手当たり次第にこなす他に手法は見当たらない。粛々と、ご来賓の方々の挨拶が続く。その後、各種表彰式へと、静かに時間が流れていく。小生の塾の職員も表彰台に、生徒のみなさんも会長から表彰状を受け取る。もっと声をかけたいが時間と心の余裕がない。この間も入場される先輩諸氏にご挨拶するのがやっとである。そうこうしているうちに、どうやら一部が終了した。

既に、我らが私塾ネット四国のユグラ大王こと湯口先生が二部の司会にスタンバイしている。彼の挨拶は、最後に小生がみなさんに謝辞として述べる予定のすべての思いを述べていただき、うれしいやらありがたいやらであった。二部はセコムの甘利氏による基調講演から始まった。彼とは経済産業省の会議で何度もお会いしていて、安心して見ていられるので、小生は席について聞きながら次のパネルのレジュメに目を通していた。甘利氏は立ったまま、マイクとはずした腕時計を器用に左手に持ち、常に時間の確認ができる状態で話されている。さすが「リスクマネージメント」？などと感心する。右手は無線ランでマウスをあやつっている。ご立派だ。

パネルの時間が始まる。今回は直前に、下村先生の中韓訪問が決定し、残念ながら出席いただけなくなった。当初、自民・民主の重鎮によるバトルを想定したレジュメを作成していたが、急遽レジュメを変更し、パネラーの先生方に添付ファイルを送っていた。直前に阿部首相の所信表明がなされていたので、「教育再生」の部分に言及し、この部分に時間を割くことを予定していた。なかなか思いどおりにはいかぬもので、一人ひとりの先生の話が長くなりがちなのだ。計画段階では、2時間のパネルは少し長いのではないかという心配が実はあった。何のことはない、時間が足りないのだ。ホテル側との固い約束で、三部の懇親会準備のため5時30分には確実にこのパネルを終了しなければならない。レジュメのあちこちを割愛し、何とかメニューをこなしたが、消化不良感が小生の頭から離れない。己の実力不足を反省する。パネリストの仙谷先生、岩永教授、十亀先生、菅原先生には、それぞれのお立場でもう少しお話をしていただきたかったと反省することしきり。どうにかこうにか、パネルのサマリーとして「公教育と学習塾との連携こそ、現代の教育が抱える問題を解く鍵である。心の教育に、教育の再生に向けて官民一体となってがんばりたい。」を「塾の日2006年提言」として会場の皆様に拍手をもって承認いただいた。

三部の司会は川原先生。彼の話術と間の取り方は素人ではない。浅草演芸場に若かりし頃入り浸った話術は、東予に川原ありと定評がある。小生は安心しておまかせし、懇親会の間じゅうみなさんのテーブルを縫って可能な限りお話をさせていただいた。自画自賛を若干お許しいただくとして、今回の最大のサプライズは「阿波踊り」であったように思う。プロの連によるライブの迫力は、「本物」が存分に見るものを引き付け、感動させるに十分であった。特に、仕事柄子どもたちの踊り子の表情に、この国のかかえる教育問題など、一体どこの話であろうかとさえ感じさせるほど心の豊かさを覚えたのは小生だけでありましょうか。「抵抗できない満足感」という不思議なものを感じさせられた。

会場のみなさんも、踊りの輪に入り、徳島の名物「阿波踊り」を堪能されたようだ。谷村先生が前で踊られる姿が、またひときわ印象的であった。徳島の仲間は、実行委員会の打ち合わせの場では、自分たちには「珍しくもない」風なことを言っておられたが、いざ本番となるとやはり血が騒ぐのである。まさかこの先生がという感じの方まで、一心不乱に踊られるのを傍で見ていて驚いたものである。ひっそり眺めるよそ者の小生には、うらやましく目に映った。彼らは、やはり筋金入りの「徳島っ子」であったのだ。会場にいる全員が同じ満足感・連帯感を共有する感動と言ったらいいすぎであろうか。みなさんのきらきらした笑顔と表情、仲間をえた人間の目の輝きを小生は忘れえない。

お礼をひとこと

全国の協会会員のみなさま、私塾ネットをはじめ他団体の先生方、遠路はるばる徳島までお運びいただいたこと、私どもの一生の誇りと受け止め、また地元実行委員会のメンバーを代表いたしまして、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。来年塾の日2007は仙台でございます。何卒、本年に劣りませぬご支援を賜りますよう合わせてお願い申し上げます。

塾の日記念式典　In　徳島　珍道中記

爆走1500km･七人の「侍」四国へ走る

私塾ネット関東総務部　渡辺浩

「スケートって寒いんですか？」監物先生のこの一言で幕は開けた。平成１８年１０月７日土曜日、私塾ネット関東のメンバー７人が１０月８日に徳島で行われる「塾の日記念式典」に出席するため、なんと自動車で徳島に向かうことになりました。集合は朝８時渋谷モヤイ像前、遅刻をしてしまったのは事務局の２人、仲野十和田先生と私渡辺浩でした。残る５人のメンバーは、谷村理事長、石川先生、監物先生、川久保先生、加藤先生、年少の２人が遅れたことに少し車内は険悪でした。ところが、監物先生の一言「スケートって寒いんですか？」これは、車内で加藤先生がご自信の趣味である「ローラースケート」の話に興じていたところ、何を思ったのか突然監物先生がこうおっしゃいました。一同大爆笑！！確かに今年は荒川静香のおかげで「アイススケート」が流行りましたよね。それにしても加藤先生の多趣味振りには驚きました。「ローラースケート」に飽き足らず、ロックを聴いたりエアガンを打ちまくったり、とても還暦をお迎えになるとは思えません。

道中は長～い支部会、鈴木代表不在だけど…

ここで、そもそも何故車で徳島に行こうということになったのかをお話しておきます。きっかけは７月に関東で行われました「定例宿泊研修」で御殿場の『時之栖』（ときのすみか）に訪れた時、川久保先生がご自身の車でいらっしゃいました。その車が日産の「エルグランド」という最高級１ＢＯＸカーで乗り心地も抜群！これを見た理事長が「よし、１０月の徳島はこの車で行こう」とおっしゃいました。この言葉と１０月の三連休ということでチケットがなかなか取れなかったということもあり、今回の自動車ツアーと相成りました。車内では色々な話が出ました。植草教授のこと、私塾ネット四国研修大会のこと、若い時に聞いていた音楽など、神戸に着くまでの８時間、とにかく話が尽きることはありませんでした。

車中の谷村･石川･渡辺そして加藤氏。なにやら某組の旅行会の雰囲気。一番奥のスーツ姿が黒幕か？

神戸･震災のつめ跡を訪ねて

神戸に到着後メリケンパークを訪れました。ここには震災の跡がまだ残る波止場やメモリアルオブジェなどがありました。関東の人間には計り知れない想像を超えるものだということがひしひしと伝わってきました。そして、ポートタワーにのぼり神戸の夜景を楽しんだ後、中華街で夕食を取りました。たまたま入ったお店が大正解！神戸の中華街は横浜の中華街とは少し趣が違い、高級中華料理屋というよりは下町のお店といった装いでした。また出てくる料理もとてもおいしく、なによりも値段がリーズナブルなのが驚きでした。

神戸元町中華街で夕食。7人全員の顔がみえる。横浜中華街より庶民的な雰囲気で味と値段にも満足。

明石から淡路島、子午線を超えて一路鳴門へ

一夜明け、我々一向は会場である鳴門を目指しました。明石から明石大橋を渡り、淡路島に入り、まだ式典には時間があったので淡路島の北淡にある「北淡震災記念公園」を訪れました。ここでは野島断層が震災当時のまま残っているほか、メモリアルハウスという実際に人が住んでおられた家を展示室にして、やはりこちらも感慨深いものがありました。震災体験館では震度７を約４０秒間実際に体験できるコーナーがあり、私と加藤先生と仲野先生がチャレンジをしました。座ってまもなく床が揺れ始め、さぁこれからという時、、、なんと機械が故障して止まってしまいました。それでもかなりの揺れでしたので、やはりあの地震は相当なものだったと思います。

そして、記念公園を後にし、鳴門に到着しました。鳴門大橋を渡る時は噂に聞いた鳴門の渦がはっきりと見て取れました。塾の日の記念式典は大盛況に終わり、懇親会では地元の阿波踊りの方々に来て

いただき一緒に阿波踊りを踊りました。でも一緒に踊っていたのは我々私塾ネットメンバーだけだったように思います。（笑）

「そうだ、京都へ行こう」 修学旅行のおき土産

最終日、これから東京に向け一向は岐路に着きました。午前１０時にはホテルを出て、鳴門の渦が間近に見られる「道の駅」でちょっと小休止、再び車は東京を目指しました。途中ガソリンスタンドで給油中、ものすごいニュースが飛び込んできました。そう、北朝鮮が核実験を行ったというあのニュースです。車内はたちまち北朝鮮関連の話になりました。そうこうしているうちに京都でお昼を食べようということになり、私のわがままで金閣寺に立ち寄ってもらいました。実は私が中３の時、もちろん修学旅行は京都・奈良だったのですが、不運にもその時金閣・銀閣が税金の関係で京都府と訴訟問題を起こし、なんと拝観停止をしてしまったのです。なので、小さい時からどうしても金閣は見てみたいという願いをこの時叶えさせて貰いました。先生方本当にありがとうございました。

東名道サービスエリアでの「ちょい馬鹿親父」のおやつ風景。
左より川久保・石川・谷村・加藤・渡辺の各氏。

秋天の鹿苑寺金閣舎利殿。まるで絵葉書ようなたたずまい。

50kmの大渋滞で車内の結束深まる
逃げる道なし一身同体

ところが、京都を出発してからの高速道路が大渋滞、名古屋で１０ｋｍ近く、そして東名は５０ｋｍの渋滞でした。なんとか途中で休憩を入れたりして渋滞が解消するのを待ったのですが、時間はすでに午後９時、各々終電に間に合うかどうかという瀬戸際だったのですが、なんとか午後１１時過ぎ、無事に渋谷に到着しました。全行程１５００ｋｍ、忘れられない旅行となりました。自動車を使わせていただいた川久保先生、本当にありがとうございました。また各先生方本当にお疲れ様でした。またぜひ自動車旅行をしましょうね！

「ありがとう」私塾ネットの仲間に感謝　飛行機組　鈴木正之（関東代表）

飛行機組：長江先生と奥さん、顧問の安藤先生と私。羽田で田中宏道先、松浦先生、AJCの森、玉城両先生と合流。

11月7日（土）午後5時、「さあ、これから授業だ。」その時、携帯が鳴った。「はーい谷村でーす。今神戸に着いたよー。」私は授業が抜けられず次の日に飛行機で徳島へ。中国四国へ行くと皆さんにいつも世話になる。今回も楠山先生を始めとする実行委員の先生方のおかげですばらしい時を過ごせたことに感謝したい。懇親会の阿波踊りは一生忘れないと思う。

次の日、安藤先生、松浦先生、田中先生、玉城先生と私は文化の森スクールの近藤誠介先生のご厚意で塾舎を見学させていただいた。本校も徳島駅前校も広く綺麗な校舎でした。サテライトを取り入れた指導には大変興味深いものがあった。

近藤寛康さんのガイドで市内観光。
左より鈴木・近藤・安藤の三氏。

午後からは、安藤先生と私は徳島観光。「塾の日」の実校委員として司会を担当された近藤先生と息子さんの寛康先生のお2人に、塾舎の見学から始まり丸1日おつき合いいただいた。何とお礼を申し上げればいいかわかりませんが、とにかく私は2人の気持ちがすごくうれしかった。我々が近藤先生とアイスを食べているころ自動車組は・・・。徳島の熱いハートを感じたひとときで、皆さんありがとうございました。

文化の森スクールの駅前教室。
最新ぴかぴかのすばらしい教室。

私学情報交換会開かれる

私塾ネット関東　桂馬　辰尚

私学の先生の説明を熱心に耳を傾ける参加者

１０月２２日、池袋カンポヘルスプラザ東京にて、５校の先生方にご出席頂き、私学情報交換会が開かれました。今回の出席者で説明を頂いたのは、東海大学付属高輪台高校校長・杉一郎先生、科学技術学園高校副校長・杉下俊雄先生、安田学園中学高校入試広報室長・福谷隆芳先生、上野学園中学高校教頭・高橋公三子先生、日本橋女学館中学高校校長・服部一枝先生（以上説明順）。中学校スタートにあたっての抱負を話される杉先生のお話や、通信制の詳しい説明をされる杉下先生、又教師になるまでの苦労話をされた福谷先生、共学化を強くアピールされた高橋先生、国語教師となったいきさつを熱く語った服部先生など、どの先生からも先生のお人柄が感じられる貴重なお話を聞くことができました。なかなか学校説明会では聞くことができない本音で語る先生方の人となりを通して学校の魅力が引き出されるのがこの会の良いところです。今回は昭和６３年にＡＩＭ学習セミナーで２校の先生方をお招きして以来，２４回目になります。昨年に続き今回も説明会で、４０数名のご出席を頂き感謝申し上げます。説明会終了後、恒例の懇親会がカンポはくちょうの間で開かれました。鈴木代表、谷村理事長の挨拶、塾全協菅原理事長の乾杯で楽しい歓談の時がスタート。今回は６０人近い塾・賛助会員の学校の先生方のご出席を頂き、盛大な会となりました。テーブルごとに私学の先生、私塾の先生のスピーチが懇親会の最後まで続き、同郷であることがわかり昔話を語ったり、学校の先輩・後輩の和ができたり、楽しいひと時となりました。１本締めの石川先生の挨拶で大いに盛り上がりました。私塾ネットの良さ、１人はみんなのために、みんなは１人のために‥‥　会員同士が家族的雰囲気の中で大いに言いたいことを言い合う。すばらしい会で終わる事ができました。今回突然司会を担当した渡辺浩先生、ご苦労様でした。東洋高校校長斉藤先生が参加されての２次会も盛大に行われました。ご出席の先生方、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

私塾ネット関東教務部の活動

私塾ネット関東　教務部長　加藤　実

平成18年７月18日（火）「ハイライフいたばし」
平成18年度第３回勉強会（勉強会通算第12回）大河原先生の「中学受験算数」の「数についての２回目」で、まず「分数のわり算　なぜ分母と分子をひっくり返してかけるのか」の説明があった。ちょっとわかりにくい説明で「数学がわからない人にもわかるように簡単にお願いします」との要望も出た。豊富な資料は好評であったが、「テキストを読むのではなく、要点を板書で説明してから、テキストを参照するやり方にして欲しい」との意見もあった。
渡辺先生の「口語文法」は説粗がかなり丁寧で、間の取りかたもいい。復習もしっかりやりながら進行していくので、かなり出来ない生徒でもついていけるのではないかと思った。ただ少し説明過多の傾向がみられる。あれもこれも説明してしまうと混乱する生徒もいるかと思う。その辺の工夫をされるとさらに良くなるのではないかと感じた。

平成18年９月11日（月）「ハイライフいたばし」
平成18年度第４回勉強会（勉強会通算13回）。前半私加藤が「中学受験算数の指導法研究①」というテーマで、プリントを配布、指導法を探った。１回目ということで計算と割合の一行問題に的を絞って行った。単純計算５題、換算計算３題、割合一行問題６題の合計14題。速く正確な計算方法および単位換算表の提示、そして「割合の３用法を教える必要はあるのか」というテーマで解説。後半は渡辺先生の「口語文法」の第４回目模擬授業で「文節相互の関係」。単語を指導してない段階での文節指導はなかなか難しいのではないかと感じた。

平成18年10月17日（火）「ハイライフいたばし」1
平成18年度第５回勉強会（勉強会通算14回）。前半は私加藤が「小学算数」の「分数のかけ算とわり算」・「小数でわる計算」について「塾の指導法と学校の指導法研究」というテーマで議論。計算そのものがわからない児童に難しい理屈を教える意味は何かということで、出来ない子どもにはとにかく計算そのものが出来るような指導を目指すという結論になった。後半は渡辺先生の「口語文法」の第５回目模擬授業でいよいよ「単語」の説明に入る。分類は十一品詞ではなく十品詞。「自立語と付属語」・「名詞」・「動詞」の定義まで終了。名詞の種類を示さない独特の指導法で、これには少々驚き！「名詞」や「動詞」が十品詞の中のどの位置にあるのかを明示しておいた方がいいのではないかと思う。

特別寄稿　受験指導50年の現場から

「生きる力」を支える「自ら学ぶ力」

私塾ネットセンター
会長　山口恭弘

私は５０年近く、広島市西部の塾で私立中学受験を指導して来ました。教室で子供たちに教えるとともに、「なぜ受験勉強か」を保護者たちに理解してもらうことにも力を注ぎました。合格、不合格より、受験勉強の中で身に付く学習態度、習慣の方がより価値があり将来、役に立つことを知っていただき、子どもと二人三脚で受験に挑んでほしいとの思いがあったからです。その保護者会で話す折に参考にしていたのが掲載している図です。参照しながら読んでいただければ幸いです。

学力を養う「学習態度」と「学習要素」

教育の目的は「生きる力」を子どもたちにはぐくむことです。「学力」はその大きな柱の一つと言えるでしょう。知的探究心、思考力、創造力…。「学力」の内容はさまざまに類別されますが、大切なのは「自ら学ぶ力」だと思います。自分で問題を解決する意欲、知識を身に付けていく積極的な姿勢といってもいいでしょう。

私はこうした「学力」を養う基盤が「学習態度」「学習要素」だと考え、かつ実践してきました。「学習態度」は素直さ、意欲、努力（継続性）、けじめです。ここは家庭で出番です。塾でも努力はしますが、こうした態度を子どもに身に付けさせる最良の場はやはり家庭です。保護者会で私が「子どもと二人三脚で」と保護者に求めるゆえんでもあります。そして言います。「親子で目標を持ってください」。将来何をしたいとの夢でもいいですが、とりあえずは「〇〇中にチャレンジする」との目標です。

そして、こう付け加えます。「できない事を気にしない。大事なのは一生懸命やるこれからの努力であり、結果はそれに付いてきます」。半世紀に及ぶ塾教師の経験から、分かろうとしてがんばる子は必ず伸びるとの確信があるからです。

塾は、家庭ではぐくまれる「学習態度」に、「聞く」「読む」「考える」「表現する」などの「学習要素」（素材）を投げ込んでやり、子どもたちが主体的に「学力」を獲得し、定着させるのを手助けする場です。よく学校教育では「分かりやすい授業を」と言われます。私も一概には否定しませんが、私は家庭や子どもたちと一緒になっての「分かろうとする授業づくり」の方が大切だと思っています。

家庭と子どもと塾。この三位一体の努力の果てに「合格」があります。たとえ不合格でも身に付けた「学力」は次のステップで生きてきます。合格、不合格いずれにしても今度は「進学する学校で何をするか」が大事になってきます。その実現に向け、受験の中で培った「自ら学ぶ力」は役立つに違いありません。

人間形成につながる受験勉強を

中学受験について長い間、「暗記中心で考える力が付かない」「人間形成を阻害する」などといった非難がなされてきました。しかし、私はそれは間違っていると思います。自ら学ぶ力を養うことがなぜ、人間形成を阻害すると言えるのでしょう。人間形成そのものです。暗記にしても、内容を理解しないと、なかなか覚えられるものではありません。

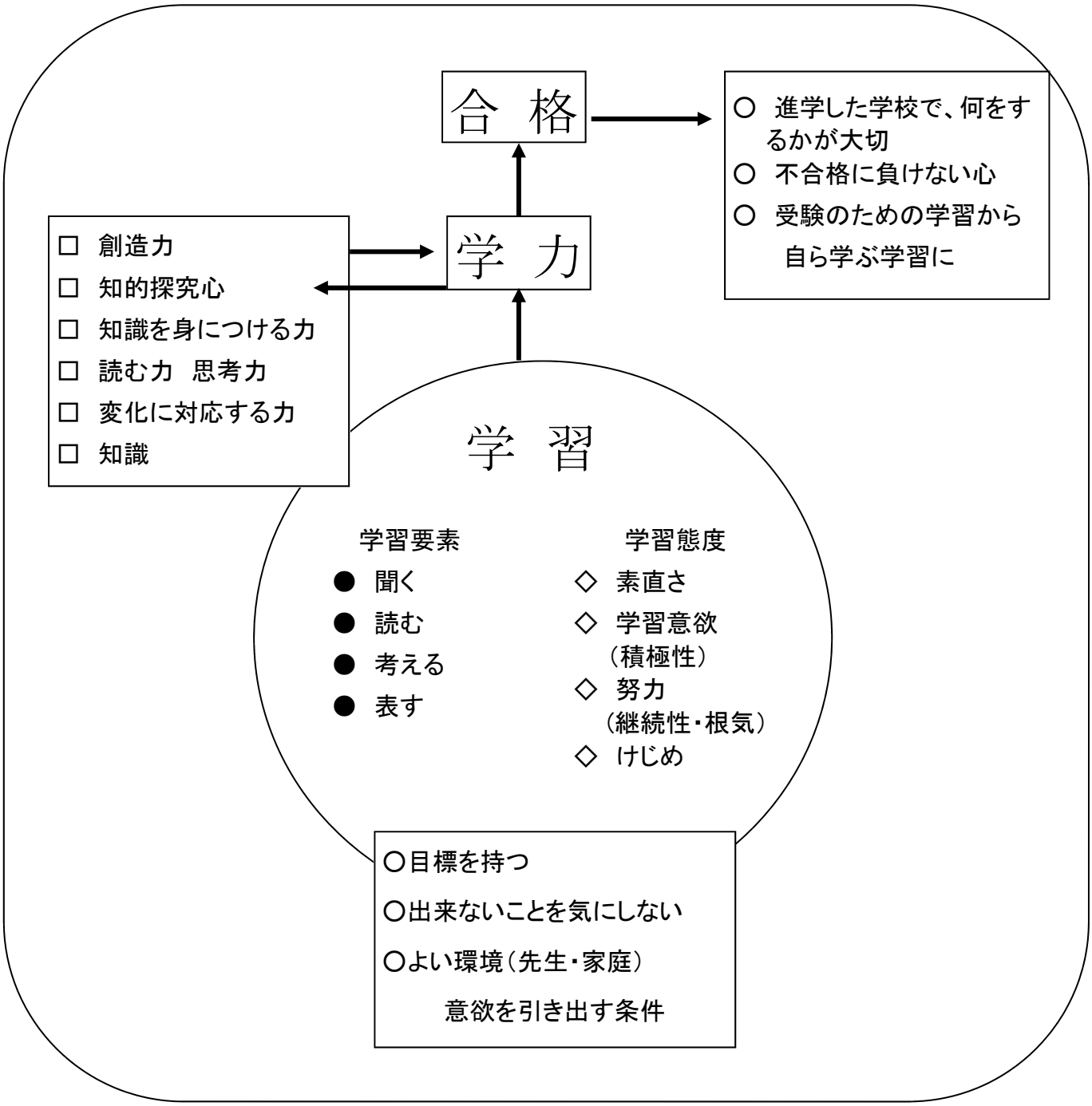
一人の塾生を思い出します。塾帰り、電車の駅で線路に降りて遊び、駅から塾に連絡があり、びっくりさせられた子です。親にも注意しましたが、なかなか直りません。ところが、しばらくして生活態度ががらりと変わったのです。駅での素行もよくなり、教室でのまなざしも真剣になりました。希望の中学に合格したのは言うまでもありません。これは試験が迫り、勉強を本気でやり始めたためだと思います。お仕着せではなく、心から合格したいと思い、生活面を含め自らを律していった良い例と言えるでしょう。受験勉強は人間形成にもつながるのです。

「ゆとり教育」の反省から「学力とは」を問い直す

１９７０年代後半でしょうか。「ゆとり教育」ということがしきりといわれるようになりました。加熱する受験戦争や、知識を偏重した詰め込み教育などへの批判からで、もちろん塾もやり玉に挙げられました。その当時の話です。塾に来ていた子どもの母

親が学校の担任に成績のことを尋ねると、勉強より遊ばせなさいと言われたそうです。「もう何も先生には相談できない」とその母親は嘆かれたものです。

その後、「ゆとり教育」はどうなったでしょう。小学生時代、「ゆとり教育」を受けた子が中学生になった時、「構内暴力」、「落ちこぼれ」が社会的問題になりました。「ゆとり教育」はまた授業の削減にもつながり今、「学力低下」が叫ばれています。私も「ゆとり（遊び）」が悪いとは思いません。昔の人は言いました。「よく学び、よく遊べ」。ゆとりを理由に、教育から「よく学べ」が抜け落ちたのが最大の問題だと思っています。もう一度、「学力とは」を根本から考え直し、教育を再構築していく必要があるのではないでしょうか。



私塾ネット四国

代表　湯口　兼司

私塾ネット四国の結束は堅い。これは様々な会に参加するたびに言われることである。いざ鎌倉ではないが、確かに事があるときに、互いの共通した目標のために協力しようとする体制は出来ていると思われる。代表がよいからだと自慢したいところであるが、そればかりではない。もちろん代表の求心力の大きさは、他に例を見ないであろうが…。

さて、前置きはともかく、その結束の真価を問われる行事が、去る１０月８・９日の両日、徳島県鳴門市で執り行われた。

『塾の日フェスティバル２００６nTOKUSHIMA』がそれである。これは社団法人全国学 習塾協会の「塾の日記念行事」として行われた行事であるが、会員が重なることもあり、私塾ネット四国もその場を研修の場とすべく協賛することになったのである。

当日、私塾ネット四国はもとより、私塾ネット北海道、東北、関東、中国からも、総勢37名の参加があった。何より有り難いことである。本来なら参加された全員の御名前を書いて謝辞を述べたいところであるが、字数制限の都合で割愛させていただく非礼をお許し頂きたい。本当にありがとうございました。

さて、ではなぜこのような研修会に多くの塾長が参加するのか、それは当然学ぶためである。学ぶことの基本は真似ることであるが、研修に於いてはそればかりではない。それは、大小様々な塾が集まっての研修、あるいは懇談会で交わされる話の内容に於いて、大の長所は小の短所に、大の短所は小の長所となりうる可能性を含んでいる。そのことを各塾長が知って、学ぼうとしている姿勢に他ならないと思われる。

加えて、今回の研修を例に挙げれば、基調講演に「民間教育機関・私立学校におけるリスクマネジメント」があったのだが、それをそのまま聴いている塾長は少なかったのではないだろうか。単に生徒を守る立場でリスクマネジメントを学ぶのではなく、その考え方の根っこにあるものを学ぼうとしている姿勢が伺われたし、そのようなメモも見かけた。

このように見てくると、私塾ネット四国の結束は堅い。その実態はそれぞれの塾長が、自塾を維持・発展させることに非常に貪欲でることの証であると言えるかもしれない。

最後に、塾の日フェスティバルを開催するに当たり、半年以上に渡って企画・準備していただいた徳島の先生方、重ねてありがとうございました。

新人会員紹介
（エイブル：田村純子先生）
香川県仲多度郡多度津町青木723-1

多度津町，エイブルの教室からは毎日生徒たちの明るい笑い声が聞こえてきます。「塾に来るのが楽しい」という生徒たちに支えられ，１９年が過ぎました。「厳しいけれど，楽しい授業」をモットーにスタッフ一同，研鑽の毎日です。

私塾ネット中部

代表　松本　紀行

「災害は、忘れたころにやってくる」と申しますが、今年７月、中部地方を襲った大雨で、長野県内では深刻な被害に見舞われました。特に岡谷・諏訪地区で５名の死者が出まして、災害救助法を受け未だ復旧作業を行っております。塾関係者が周りの方々の善意を募り、岡谷ボランティアセンターへ募金をお贈りし、役立てて頂きました。第２弾としまして、岡谷市教育委員会のご協力を得て、岡谷市の小学校体育館をお借りして、「岡谷市水害支援スポーツ大会」を挙行し、義援金を岡谷市社会福祉協議会へ寄付させて頂きました。この地域の人々は、今でも雨が降ると、戦々恐々としております。

中部エリアの今後の予定といたしまして、過日、信州白骨温泉で行いました懇親会「湯けむりの会」を冬に行う予定になっております。関東・中部の会員の皆様、気楽に何でも話せる会ですので、皆様のお越しをお待ちしております。詳しくは、後日ご連絡させて頂きます。春先には、私塾ネット定例会を企画中です。また、１月に行われる長野県統一テストの作問審議会を、本日実施致しました。テスト会の幹部校は、私塾ネットの会員ばかりですので、楽しくもあり、厳しくもあり、そんなムードで２０年以上やっております。長野県では、前期選抜・後期選抜が採用されております。試験内容が易しくなってきて、私共のテストが難しすぎて点が取れなくなってきている子もおり、それで退学する子も出ているので、今回は６０点を平均的に取れるようなものにするのがテーマとなりました。結構良いものに仕上がったようです。

ところで、私どもの周りでは、個別指導の塾が結構増えて、一斉指導の塾を追い越す勢いです。特に明光義塾の派手な宣伝には、田舎の人たちを驚かせています。また、東進衛星予備校のように、当初から立ち上げてた塾は、ほとんど潰れ、新システムを取り入れた東進衛星が現れ始めています。１０年前と比べ、高校生をターゲットにした塾も確実に増えております。一斉指導では、北海道を拠点とする東大

進学会が凄まじい勢いで小型の塾を展開しております。それほど成功しているとは思えませんが、新設の足の速さには驚かされます。健康を害して、悪戦苦闘する仲間も多くなってきた昨今、新たな戦略を持って世の中に尽くせる私塾を作っていく必要性を強く感じています。このような中で、我が同士、松進学院の元気さは、私たちに活気を与えてくれます。
いよいよ、冬期講習の準備に忙しい時期が到来しました。皆様、頑張ってよい年を迎えられるよう、お祈り申し上げます。

私塾ネット関東

代表　鈴木　正之

定例研修会報告
「無料ＴＶ電話を活用しよう！」　～インターネットを活用した新しい通信手段～
第２１回定例研修会は、パソコン教育推進協会（Ｐ推協）の協力により「スカイプ研修」を実施した。スカイプとは、インターネットを使った無料電話で、カメラをパソコンに取り付けソフトをダウンロードするだけですぐに利用できる。当日はＰ推協事務局長の平林治先生（私塾ネット顧問）の説明により開始。ダウンロードからスタートし、スカイプについての講義の後、実際に使用した。自塾に待機していたＰ推協理事長の碇優先生（私塾ネット顧問）と同理事川畑卓也先生がスクリーンに登場すると歓声が上がった。谷村理事長もカメラに向かって手を振って大喜び。品川の会場と館林、太田をＴＶ電話で結びしばし会話を楽しみ研修会は無事終了した。
今後は、「お茶の間塾」、「家庭にいながら個人面談」、「複数の人と電話会議」と活用法はつきない。特に私塾ネット代表者会議をこれで行えば、全国から集まる必要がなく交通費と時間の節約になる。ただ、実際に会って話し合うことには優らないので全ての会議をスカイプでということにはならないと考える。どちららにせよ使いようである。

私塾ネット東北

代表　畑山　篤

私塾ネット東北のメンバーは現在５名。そのうちの４名が青森県です。この４名は社団法人全国学習塾協会の会員でもあります。去る１０月８日には「塾の日フェスタin徳島」に参加させていただきました。全国区の関志郎先生（むつ市／関教育学舎）のお供のような形で、私と安藤水無子塾長（八戸市／ANDY'S）は初めて瀬戸内海を渡りました。我々の「三陸リアス式海岸」の海とは全く違う本当に美しい海に感動いたしました。神戸の街から淡路島、そして徳島へ。たくさんの船が行き来する風景は、遙か昔から今日までの歴史をつなぐ壮大なパノラマでした。八戸市で生まれ育った私は海を見て「歴史の重み」を感じたことはなかったことに気づきました。徳島の夜は懇親会、二次会、三次会と続きました。気がつけばホテルの部屋のベランダで朝の５時まで気の合う先生方と教育について浴衣談義。気温は１８℃、月明かりに照らされた瀬戸内海の水面は優しく揺れていました。…あれから３週間。今日の我が町（青森県八戸市）の気温は４℃でした。もちろん屋内ではストーブを焚いています。例年通りなら１週間以内に初雪です。そんな東北エリアでは先日、１２月３日（日）に行う「２００６年県立・私立高校進学情報展in八戸」というイベントの実行委員会が行われました。徳島で多くの先生方からエールを頂き、結果としてこの実行委員会が開かれました。参加者は私と安藤水無子塾長の他に富樫恵智子塾長（秋田県大館市／啓晃学院）とスタッフ１名、オブザーバーとして東京から日本航空高校校長代行の篠原雅成先生とスタッフ１名そして志学塾のスタッフ４名の合計１０名。徳島で再会を誓い合ったメンバーです。授業が終わってからの集合なので２３時から翌朝６時半までの熱い語らいでした。イベントの内容は、中学生２００名～３００名を対象にした「私立高校進学相談会」です。地元私学６校の他に、函館ラ・サール高校（北海道）、古川学園高校（宮城県）、日本航空高校（山梨県）は常連校で、四国・中国から２～３校の参加があります。社団法人全国学習塾協会北海道東北支部の主催・主管ですが、私塾ネットの後援も頂きながら「冬の東北で熱いイベント」を開催する計画で準備を進めております。全国の皆様のお越しをお待ちいたしております。尚「お知らせ」等が行き届かない場合はご容赦の程お願い申し上げます。私塾ネット東北のエリア通信でした。

賛助会員東洋高校
創立１００周年記念式典を迎えて

創立100周年にあたり

東洋高等学校　　校長　齋藤　元治

２００６年(平成１８)４月２１日、東洋高等学校は創立１００周年を迎えました。記念式典、祝賀会も１０月２７日に無事終了しました。これも多くの皆様のお蔭と感謝しております。

ひとくちに１００年と申しましてもさまざまな歴史の波に洗われ、翻弄されたものでした。本校の１００年の歴史は大まかに三つの時期に分けられます。商業専門学校として明治３９年に創立してから第２次大戦の敗戦を迎えるまでの４０年。敗戦後から、第１次ベビーブームを経て、経済成長とともに商業教育が活況を呈した東洋商業高等学校時代の３０年。そして、校名を東洋高等学校に改称し、校舎を新築して男子校から共学校へと大きく変身して現在に至る３０年。

そして、時あたかも２００６年。安倍晋三内閣が発足し、「憲法改正」「教育基本法改正」が声高に叫ばれ、「教育再生会議」が設置されました。「教育は国家１００年の計」とはいうものの、官製の教育改革はなぜにこうも失敗続きなのでしょうか。一言でいえば現場を知らない人たちが密室で議論し、立派な計画を作ってしまうからでしょう。そして現場には上からの力ずくの強制が働く。「学習指導要領」にきつく縛られている公立学校の現場では、児童生徒、教員たちは深く傷つき疲労困憊しています。「日の丸・君が代」問題に象徴される国家主義的押し付け、あるいは「愛国心評価」問題。現場では「いじめ」が横行し、児童生徒だけではなく教員の自殺者までが出ています。大学入試制度が抜本的に変わらないままに「五日制、ゆとり」が導入され、受験科目以外の教科科目は軽視され、結果としてカリキュラム偽装が各地から報告されています。そして、少子化が進行するなかで、公立学校は小中一貫校、中高一貫校を続々と誕生させています。高校だけを考えても進学重点校、エンカレッジスクールが人気になっています。私立学校はますます厳しい状況に追い込まれています。

私立学校は、それぞれの建学の精神・教育理念・教育モットーを掲げて教育活動を続けてきました。もちろん国家や時代の影響をまったく受けないというわけではありませんが、独自色をはっきり打ち出して特色ある学校づくりに励んできました。そもそも日本の学校教育は歴史的に見ても私塾、私学が培ってきたものです。現在も宗教教育、全人教育、人間教育、芸術教育、受験教育などさまざまな教育を実践しています。常に私立学校は、いかに時代の要請、生徒、保護者の期待に応えるかを考えています。建学の精神・理念を現代的に読み替え、未来につなげていくかに腐心しています。しかし、これも時代なのでしょうか、この１０年ほど愛情過多、過剰な教育熱を持つ保護者が増えました。わが子がかわいい、痒いところを掻きすぎる保護者。なんでも自分の思い通りになると勘違いする親子。すべてはエゴイズムから発しています。他人とコミュニケーションがとれない子供。学校でも孤立してしまう子供。こうした現象があちこちで起きています。

創立１０１年目に突入する東洋高等学校は、更なる学校改革を進めます。入り口に見合った出口の実現、現状は大学進学実績がまだまだ十分ではありません。進学実績を上げなければ受験生が集まらないという現実は受け入れざるを得ません。ただ、学校という場所は生徒たちの「生活の場」であるということを忘れたくはありません。国公立・難関大学合格のための授業は、塾や予備校と協力して推し進めます。学校行事に自主的、積極的に取り組む生徒たちのエネルギーを大切に見守ります。本校の生徒の特色は「明るく、楽しく、元気よく」です。学校行事をやり遂げたあとの生徒たちの満足の笑顔、感動の涙に共感を覚えながら、創立２００年を目指して生き生きと学校生活を送る生徒を育てていきたいと思っています。

各　部　報　告

渉外部

渉外部長　佐藤勇治

１　各団体7月－10月までの主な活動報告

（１）全日本学習塾連絡会議

①第78回 全日本学習塾連絡会議／第27回 私立中高進学相談会 第1回 実行委員会

・日　時： 7月5日(水)　10：00－12：00
・会　場：かんぽヘルスプラザ（池袋）
・出席者：14団体　25名
・内　容：平成18年度(2006)『私塾・私学・企業　教育ネット要覧』≪第6集≫発刊報告
第27回 私立中高進学相談会について

②第4回 全日本学習塾連絡会議　世話人会

・日　時： 9月4日(月)　10：30－12：00
・会　場：ＡＪＣ事務局（目白）
・出席者：7人（全員出席＝岡田、稲葉、菅原、谷村、玉城、松田、佐藤）
・内　容：これからの各団体の行事予定について

③第79回 全日本学習塾連絡会議／第27回 私立中高進学相談会 第2回 実行委員会

・日　時： 9月6日(水)　10:00－12:00
・会　場：かんぽヘルスプラザ（池袋）

・出席者：15団体　28名
・内　容：各団体の行事予定発表・説明、第27回 私立中高進学相談会　動員と役割分担

（２）社団法人・全国学習塾協会

①学習塾に通う子どもの安全対策セミナー

・日　時： 9月10日(日)　13:00－15:00
大坂バーサイドホテル
・日　時： 9月11日(月)　10:00－12:00
広島ガーデンパレス
・日　時： 9月17日(日)　13:00－15:00
チサンホテル博多
・日　時：10月22日(日)　13:00－15:00
名古屋国際会議場
講師＝立正大学文学部教授　小宮信夫先生－機会なければ犯罪なし－

②塾の日フェスティバル2006

・日　時：10月 8 日(日)　13:00－20:00
・会　場：徳島県鳴門市
ルネッサンスリゾートナルト
・内　容：第1部　式典
第2部　基調講演パネルディスカッション
第3部　親睦交流会
式典では読書作文コンクール表彰、懇親会で地元「扇連」による「阿波おどり」の披露などがありました。

（３）全国学習塾協同組合（ＡＪＣ）

○パロス個別指導定例会

・日　時：10月15日(日)　13:00
・会　場：東京国際フォーラム
（ＪＲ有楽町駅前）

（４）私塾協同組合連合会

○第17回 全国研修大会 in 静岡

・日　時： 9月17日(日)　13：30－20：30
・会　場：静岡市「もくせい会館」
・内　容：第1部　教育シンポジュウム
「どう伸ばす？塾講師・教職員の資質向上」
「どう埋める？地方と中央の格差！」
第2部　分科会
第3部　懇親会

（５）NPO法人 学習塾全国連合協議会（NPO 塾全協）

○第27回 私立中高進学相談会

・日　時： 9月18日(日)　11:00－15：30
・会　場：新宿ＮＳビルＢＩ展示ホール
各学習塾団体協賛　私立中学・高校138校、参加者3000名を超え、盛況であった。

（６）東京私塾協同組合

○親と子の私立・都立中学高校受験相談会

・日　時： 9月24日(日)
・会　場：「ＢＩＧ ＢＯＸ
西武スポーツプラザ」（高田馬場）
・内　容：昨年同様、大盛況であった

（７）埼玉県私塾協同組合

○学習塾対象・中高入試説明会

・日　時： 9月24日(日)
・会　場：大宮ソニックシティビル

（８）社団法人・かながわ民間教育協会

○第18回「私学・私塾フェアー」学習塾団体としては最大規模の動員力のある中高進学相談会

①神奈川・東京私立中高進学相談会

・日　時： 9月23日(祝)
・会　場：町田会場
（ホテル・ザ・エルシティ町田）

②神奈川・東京私立中高進学相談会

・日　時：10月 8 日(日)
・会　場：小田原会場
（川東タウンセンター・マロニエ）

③神奈川・東京私立中高進学相談会

・日　時：10月９日(祝)
・会　場：パシフィコ横浜・アネックスホール

（９）全日本私塾教育ネットワーク（私塾ネット）

①私塾ネット関東「定例研修会」
・日　時：９月14日(木)
・会　場：いぶき学院（品川区大井町）
・内　容：碇塾（群馬県太田市）、アイ・アカデミー（群馬県館林市）、いぶき学院（品川区大井町）の3会場をテレビ電話で結ぶスカイプ＆フェーストゥーンのＩＴ研修会研修
講師＝パソコン教育推進協会　事務局長　平林　治

②私塾ネット関東「私学情報交換会」
・日　時：10月22日(日)　14：00－20：00
・会　場：かんぽヘルスプラザ東京（池袋）
・内　容：午後18：30から開催された「私塾・私学・企業」の懇親会には約70名が出席盛大に行われました。

（10）民間教育連盟

○私学・私塾のための教育改革シンポジュウム「どうなるどうする小学校英語と廃校活用」
・日　時：８月25日(金)　10：00－12：20

・会　場：衆議院第二議員会館　第一会議室
・内　容：下村博文衆議院議員、文部科学省初等中等局担当官2名ほか出席参加者は約80名

（11）NPO法人 全国教育ボランティアの会

①第1回「親子の集い」
・日　時：７月16日(日)　09：00－17：00
・会　場：調布市市民プラザ「あくろす」
・内　容：コンニャク作り、望遠鏡作り、天文教室　　参加者＝約329名

９月24日の親子の集いで自分で作ったコンニャクを食べる

②第2回「親子の集い」
・日　時：９月24日(日)　09：30－16：40
・会　場：鳥取県湯梨浜中学校高等学校
・内　容：コンニャク作り、魔方陣、天才カメ君競争、天文教室
参加者＝約115名

③第3回「親子の集い」
・日　時：10月15日(日)　09：30－16：40
・会　場：秋田県羽後町立明通小学校
・内　容：ラムネ作り、魔方陣、天文教室
参加者＝約163名

親子の集い開会セレモニー

２　これからの主な行事予定　10月－12月

（１）10月28日(土)
NPO法人 全国教育ボランティアの会
第4回「親子の集い」　広島市「長遠寺」
「鈴木三重吉　赤い鳥の講演と史跡めぐり」
実行委員長　河濱一也先生

（２）11月３日(祝)　第32回NPO 塾全協
かんぽヘルスプラザ東京（池袋）
基調講演：文部科学省生涯学習推進課
課長　高橋道和氏　13：00－20：30

（３）11月19日(日)
NPO法人 全国教育ボランティアの会
第5回「親子の集い」　香川県三豊市
「高瀬町　農村環境改善センター」
電気パンと手作りバター、ミニプラネタリウム作り、天文教室　実行委員長　湯口兼司先生

（４）12月３日(日)全日本学習塾連絡会議、研修会、塾団体合同忘年会　14：30－20：00
ホテルメトロポリタン（池袋）
主催：東京私塾協同組合　協賛：各学習塾団体

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田

第10回代表者会議報告

日時：10/8（日）　17：00～
場所：鳴門ルネッサンスリゾートホテル
出席（敬称略）：入江、関、畑山、田中（弘）、石川、鈴木、谷村、渡辺、田中（宏）、碇、城、安藤、山口、十亀、近藤、湯口、仲野

（社）全国学習塾協会主催、塾の日記念のイベントが徳島県で行われました。第１０回代表者会議を行うことが決まったのが、事務局の不手際で１週間前。メールやFAXで恐る恐る代議員の皆様に打診したところ、多くの方から快く返事をいただきました。私塾ネットの方々は優しいー！（これに甘えないようにします）。

「場所と時間は当日連絡します」とのことで、研修会と懇親会の間、３０分を利用して谷村理事長の泊まる部屋に集合し、ベッドの上に座ったり、あるいは立ったままの状態で始まりました。理事長の挨拶に引き続き、関先生より最近の社団の様子についてお話しがありました。一段と、私塾ネットの結束が強まった会だったと思います。

第１１回代表者会議は、平成１９年４月２２日（日）。例年通り、全国研修大会当日に行います。場所は『品川プリンス』となります。

閑話休題　理事長　谷村　志厚

◆塾の日記念式典の盛会に感謝

徳島での塾の日記念式典が成功裏に終わりなによりです。式典の準備・実行にあたられた実行委員長の楠山さん他、学習塾協会と私塾ネット四国のメンバーの皆さんのご尽力に、あらためて敬意を表します。ありがとうございました、そしてお疲れさまでした。式典の様子は実行委員長みずから、詳細なレポートをお書きになられていますのでご覧ください。また関東からはせ参じた7人衆の珍道中記は、総務部渡辺さんがまとめてくれました。ご自分のことなのでやや筆が鈍っておりますが、「放課後の部活」も活発であったことを申し添えておきます。

名神高速琵琶湖インターで小休止。絶好の秋日和と絶景の琵琶湖畔。左より仲野、川久保、石川、監物、谷村、加藤氏。湖南より淡海をわたる小春風（酒肴）

◆教育改革急ピッチ・気になる「放課後子どもプラン」

安倍新内閣発足以来、教育論議がまことに活発になってきました。官房副長官に就かれた下村博文代議士が教育施策部門のブレーンといわれ、我々ときわめて近い距離で教育改革が進行しつつあるようです。教育基本法の改正から義務教育改革まで、戦後の教育制度への手直しが一気に進もうとしています。さて、そんななかで塾界として気になるのは、文科・厚労両省の「放課後子どもプラン」です。これは文科省の「放課後子ども教室推進事業」と厚労省の「放課後児童健全育成事業」の総称で、来春４月から全国２万余の小学校区での実施が計画されています。概算要求は合わせて３３０億円規模です。前者の事業が「地域こども教室」（H.18年8318ヶ所）、後者が「放課後児童クラブ」（H.18年15,857ヶ所）を発展的に連携するものです。この取組みを通じて、「地域の教育力の再生」「地域における子育て環境の整備」「子どもの安全・安心で健やかな活動場所の確保」「再チャレンジ支援、格差是正（学力保証）」を実現するとしています。活動場所は放課後の学校施設を利用し、実施主体は市町村教育委員会と福祉部局が設置する「運営委員会」。全小学校区に配置するコーディネーターが「学び・体験・交流・遊び・生活の場」を「子ども教室」と「児童クラブ」の両事業に振りわけ運営します。

ではこのプランが学習塾にどのような影響を与えるでしょうか。今回の「子ども教室」の目的が学力の補完と充実におかれていることが、これまでの「地域子ども教室」とは違う点です。全国に一気に２万余の無料の補習塾ができるとすれば、補習中心の小学生を対象とした地域の塾にとっては、大きな脅威となるでしょう。もっとも、この取組みの主体が市町村ですから、それぞれに温度差がありその点で影響の度合いは違ってくるでしょう。また、「公立無料塾では学習の成果は出ない」「塾の対象者と生徒の層が違う」といった声も聞かれ、塾への影響は最小限とする意見もあります。はたして楽観視できるでしょうか。「子ども教室」では出来なくて塾で出来ることは何か？発展的学習内容指導への特化、個別指導の充実・・・など。学習塾として打つ手は何か？皆さんとともに模索していきたいと思います。

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校　TEL03-3376-2244
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
村山　ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生

江戸川学園取手中学高等学校　TEL0297-74-8771
〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
竹澤　賢司先生

十文字中学高等学校　TEL03-3918-0511
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
卯木　幸男先生

東洋高等学校　TEL03-3291-3824
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
齋藤　元治先生

桜丘中学高等学校　TEL03-3910-6161
〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
品田　健先生

聖徳大学附属中高等学校　TEL047-392-8111
〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
川並　芳純先生

麹町学園女子中高等学校　TEL03-3263-3014
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
伊藤　暁先生

春日部共栄中学　TEL048-737-7611
〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
宇野　禎弘先生

大成高等学校　TEL0422-43-3196
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
森　保先生

東京学園高等学校　TEL03-3711-6641
〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
須藤　勉先生

東京立正中学高等学校　TEL03-3312-1111
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
藤井　教戒先生

八雲学園中学高等学校　TEL03-3717-1196
〒152-0023 東京都目黒区八雲　2-14-1
横山　孝治先生

関東第一高等学校　TEL03-3653-1541
〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
副田　康孝先生

武蔵野中学高等学校　TEL03-3910-0151
〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
福澤　清一郎先生

神田女学園中高等学校　TEL03-3291-2447
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6
後藤　久夫先生

和洋国府台女子中学高等学校　TEL047-371-1120
〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
太田　陽太郎先生

東京文化中学高等学校　TEL03-3381-0196
〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
上前　善勝先生

英数学館中学高等学校　TEL084-941-4115
〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
和田　淳先生

文京学院大学女子中学高等学校　TEL03-3946-5301
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
水上　茂先生

京北学園中学高等学校　TEL03-3941-6253
〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
実方　隆志先生

大森学園高等学校　TEL03-3762-7336
〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
河嶋　正先生

東京成徳大学中学高等学校　TEL03-3911-2786
〒114-8526　東京都北区豊島8-26-9
増澤　文徳先生

日本工業大学附属中学　TEL03-3467-2130
日本工業大学附属東京工業高等学校
〒153-8508　東京都目黒区駒場1-35-32
河村　文夫先生

青稜中学高等学校　TEL03-3782-1502
〒142-8550　東京都品川区二葉1-6-6
多々良　昭典先生

東京女子学園　TEL03-3451-6523
〒108-0014　東京都港区芝4-1-30
実吉　幹夫先生

安田学園中学高等学校　TEL03-3624-2666
〒130-8615　東京都墨田区横綱2-2-25
福谷　隆芳先生

多摩大学目黒中学高等学校　TEL03-3714-2661
〒153-0064　東京都目黒区下目黒4-10-24
福本　明男先生

駒込中学高等学校　TEL03-3828-4141
〒113-0022　東京都文京区千駄木5-6-25
河合　孝允先生

愛国中学高等学校　TEL03-3658-4111
〒133-8585　東京都江戸川区西小岩5-7-1
高橋　英夫先生

日本橋女学館中学高等学校　TEL03-3662-2507
〒103-8384　東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6
羽田野　敦先生

LEC東京リーガルマインド大学　TEL03-5913-6903
〒164-0001　東京都中野区中野4-11-10
大久保　忠志先生

株式会社パイロットコーポレーション　TEL03-3538-3782
〒104-8304　東京都中央区京橋2-6-21
辻　豊様

株式会社教育企画ティーファイブ　TEL03-5479-7061
〒140-0001　品川区北品川1-22-17　ニックハイム104号
山田　孝幸様

株式会社創開コミュニティー　TEL04-7164-6511
〒277-0005　千葉県柏市柏3-4-25　小溝ビル
小林　和光様

㈱アズサコーポレーション　TEL03-3477-2011
〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町29-31
石野　ゆかり様